

2022 年 12 月 12 日

各 位

J X 石油開発株式会社

マレーシア・ペトロナスチャリガリとの覚書の締結について

当社（社長：中原 俊也）は、マレーシア国営エネルギー会社である Petroliaam Nasional Berhad（以下、「ペトロナス」といいます。）が 100%出資する PETRONAS Carigali Sdn. Bhd.（以下、「チャリガリ」といいます。）と共同でマレー半島沖合の高濃度 CO₂を含む既発見未開発 5 ガス田群（Bujang、Inas、Guiling、Sepat および Tujoh）の開発技術提案をペトロナスに行うことおよび本ガス田群の権益取得の検討を進めることについて覚書を締結しましたので、お知らせいたします。

当社は、2020 年 3 月に独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構（現・独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構）と共同でペトロナスとの間で締結した共同スタディ契約に基づき、ガス田開発に伴って産出される CO₂を分離回収し、CCS<注> 技術を用いて近隣の減退ガス田に圧入することで、既発見未開発ガス田の低環境負荷での開発実現を目指す共同研究を 2020 年 4 月から 2021 年 9 月にかけて実施しました。

その結果、当社は、ペトロナスから、チャリガリとともに、上記 5 ガス田群の評価検討をさらに進め、将来的な生産分与契約の締結を視野に入れたガス生産の事業化に向けた提案を行うことについて打診を受けたものです。

本案件は、天然ガス需要が増加する半島マレーシア域内へのガス供給増に貢献するとともに、当社が重点事業地域の一つと位置づけているマレーシアでの事業拡大に寄与する案件であり、低炭素・循環型社会実現への貢献という ENEOS グループの目標に沿ったものと考えており、当社はチャリガリとともに対象ガス田群の低環境負荷での開発の実現に向けて、鋭意検討を進めて参ります。

<注> CCS: Carbon dioxide Capture and Storage の略。排出される二酸化炭素を回収し地下に圧入する技術。



署名式の様子

前列左から 2 番目 (PCSB) Hasliza Othman (Chief Executive Officer)、3 番目 (当社) 有賀康人 (KL 事務所長)

後列左から 2 番目 (PETRONAS) Aidil Shabudin (Head of Resource Development & Management, MPM)、3 番目 (PETRONAS) Mohamed Firouz Asnan (Senior Vice President, MPM)...